

幸福を、平和を、豊かな心を、カンボジアの友と分かち合おう

Angkor Wat

# アンコールワット

発行日:2023年(令和5年)2月1日 会報 第127号

特定非営利活動法人(NPO法人)

## 21世紀のカンボジアを支援する会

(AAC21) ASSOCIATION OF AID FOR CAMBODIA IN 21 CENTURY

【東京本部】〒176-0011 東京都練馬区豊玉上2-25-7-203  
TEL:03-3991-2854 FAX:03-3557-1213  
E-mail:info@aac21.net

【カンボジア事務所】Royal park condo,Street 608, Toul kok,  
Phnompenh,Cambodia  
(855) 17-599-707

【ホームページ】 [カンボジア支援](#)

【公式ブログ】 [メコンの風に吹かれて](#)



### 2022年(昨年)は合計10基の井戸を寄贈



武藤和義・康代夫妻寄贈の井戸



武藤和義・康代夫妻寄贈の井戸ネームプレート



田之筋地域づくり協議会寄贈の井戸

この程カンボジアの小学校に、大型手押しポンプ式井戸3基が完成した。

完成したのは、「田之筋地域づくり協議会」及び「田之筋小学校」(愛媛県西予市)の皆さんが寄贈してくれた「アンコール小学校」(コンボンスプー県ボーセト郡、生徒数=646人)と、武藤和義様(82歳)・康代様(74歳)夫妻が寄贈してくれた「24カンニャー小学校」(コンボンスプー県ボーセト郡、生徒数=823人)、「キリヴォンスレン小学校」(コンボンスプー県ソムロントン郡、生徒数=442人)の合計3基。

12月8日、現地スタッフが3つの小学校を訪問、井戸の完成を見届け性能点検した上で贈呈式を行い、完成を祝った。

井戸の深さは平均して約40メートル、ヒ素などの水質検査を実施しているため、生徒や村民には安心・安全な井戸水を提供している。

2つの小学校に井戸を寄贈した武藤和義・康代夫妻(長崎県長与町在住の里親会員)は11月14日に結婚52周年を迎え、その記念に井戸を寄贈してくれた。

またもう一つは、娘さんの臨床研修修了記念(2022年8月26日)として寄贈してくれた。

現地での物価高騰や円安により、井戸建設代金が値上がりしているにも関わらず、昨年(2022年)は本会会員さんが合計10基の井戸を寄贈してくれた。感謝というほかない。

### オンラインによる学校間交流第2弾

11月2日、平田小学校(岩手県釜石市)とカンボジアのワットコフ小学校(プノンペン市)で学ぶ一部の生徒たちが、Zoomによるオンラインで交流した。及川副理事長(岩手県在住の里親会員)が平田小学校に出向き、仲立ちしてくれた。

当日はWi-Fi電波も良好、生徒たちが交互に質問しあう形で進行、50分程度の時間だったが有意義な時間を過ごせた。今後も定期的に交流することを約束して終了した。

日本の小学校と現地カンボジアの小学校で学ぶ、生徒間の相互交流を仲立ちしてくれる方はご連絡を

☎03-3991-2854



学校間交流会の様子

## カンボジア人の国民感情は「日本人が大好き」

NPO法人 21世紀のカンボジアを支援する会 理事長 根岸恒次

11月、東南アジア諸国連合(ASEAN)首脳会議が、カンボジアの首都プノンペンで開かれました。首脳会議には中国から李克強首相が参加しましたが、現地到着の翌日には、中国が支援したカンボジア初の高速道路の開通式典に出席しました。

プノンペンから西部のリゾート「シアヌークビル」を結ぶ全長約190キロメートルの高速道路で、片道5時間のところ2時間に短縮されました。「シアヌークビル」は海岸がきれいなリゾート地であるとともにカンボジア唯一のコンテナ港です。高速道路は経済を一層押し上げる効果が期待されています。

世界遺産「アンコールワット」がある「シエムリアップ」でも郊外に新空港が建設中で、こちらも中国企業が請け負い今年中の完成を目指しています。内戦終結後、日本はかつて最大の支援国でし

たが、中国が2010年頃に追い抜き、今は圧倒的な差ができてしまいました。GDPの差が現れていると言えます。

加えて政治でも、今や中国への傾斜が進む一方で、7月に行われる総選挙で公正な選挙が行われないようなら、現政権の独裁体制が一層強化されそうです。

唯一の救いは、中国一辺倒の政治・経済に対し、カンボジア人の国民感情は必ずしも中国進出を歓迎していないようです。

私の体験からも、カンボジアを訪問すると「日本人が大好き」という言葉をよく聞きます。ひいき目かもしれませんが、「日本人がきらい」という人に出会ったことがありません。

日本人は親切で礼儀正しく、同じ仏教国なので親近感を持っているようです。私たちNGO活動の分野では、相変わらず最大の支援国なのです。胸を張り活動していきましょう。



子どもたちも日本人が大好き

## カンボジアの子どもたちをサポートしてください

### クメール教育里親会員募集

長かった内戦が終わって平和になったカンボジアですが、国の復興はなかなか進まず、多くの人々は貧困に苦しんでいます。特に農村では、貧しかったり親を亡くしたりして学校へすら行けない子どもや、学校へ行けても途中でやめてしまう子どもが後を断ちません。

本会では、農村の子どもたちが学校へ行けるようにと、教育資金をサポートしてくれる里親さんを募集しております。

思えば77年前、敗戦して焦土となった日本を救ってくれたのは、諸外国からの援助でした。カンボジアも食料援助をしてくださいました。日本の子どもたちもその恩恵を受け学校に行けるようになりました。豊かになった私たちが、今度は困っているアジアの子どもたちを支援する番です。

※お友達グループや職場など、グループ単位でサポートしていただくこともできます。

【教育里親会費】子ども1人につき1年間3万円。

(活動のための諸費用含む)

- ・子どもへの直接支援額を高めるよう努力しております。
- ・一括納入、分割納入(毎月、年2回)のどちらでも可。
- ・所定の郵便振替用紙を使いお振込みください。

【支援する期間】・少なくとも子どもが学校を卒業するまでの間、支援して頂けたら幸いです。やむを得ず子どもが中退する場合もありますが、その際は別な子どもの支援をお願い申し上げます。

【子どもとの交流】・子どもからは概ね6ヶ月に1度、近況を報告する手紙(日本語に翻訳)と写真が届きます。  
・里親から手紙、プレゼントを届けることができます。(子どもから写真とお礼の手紙が届きます)

里親さんありがとう



Facebook に本会の活動を随時投稿しています

### 夢ホーム卒園生はいま

三林さんが同窓会を開く

本会が2009年、カンボジア・コンボンスプー県に開設した児童養護施設「夢ホーム」は諸事情により2020年に閉園したが、この間30人以上の子どもたちが卒園し、社会に巣立っていった。

卒園した子どもたちの多くは立派に成長し、社会で活躍している。

10月23日、カンボジアに滞在中の三林けい子さん(新潟県在住の里親会員)が、プノンペン市内で「夢ホーム同窓会」を開いてくれた。全員ではないが、その後特に親交のある卒園生が7~8人集合、現地スタッフも加わり楽しいひと時を過ごした。

三林さんは夢ホーム開園中ホームに泊まり、子どもたちのために職業訓練や日本語指導をしてくれ、卒園した今も時折り交流している。絆の深さに感銘。



夢ホーム同窓会

### 教育支援をお願いします!

「クメール教育里親基金」では、教育支援を希望するカンボジアの子どもたちを、会報紙面で紹介いたします。支援して下さる方は、子どもの名前を添えて、事務局までご一報ください。  
(先に里親が確定する場合がありますので、ご承知ください)  
また、既に里子をお持ちの方も歓迎いたします。顔の見えるマン・ツー・マンの教育支援です。  
☎03・3991・2854 FAX03・3557・1213

スワイ・ソカー君  
(男の子)



スロン小学校  
(コンボンスプー県)  
2年生(8歳)

●父親死亡、母親のみ。兄弟はいない。現在母親と暮らす。  
●好きなこと=サッカーをすること。  
●学校まで徒歩で35分。

ムーン・ラディン君  
(男の子)



スロン小学校  
(コンボンスプー県)  
4年生(11歳)

●父親死亡、母親のみ。弟と妹がいる。現在母親、弟、妹と暮らす。  
●好きなこと=サッカーをすること。  
●学校まで徒歩で35分。

ケン・スレイピッチちゃん  
(女の子)



スロン小学校  
(コンボンスプー県)  
5年生(11歳)

●家族構成=両親離婚、母親のみ。弟が2人いる。現在母親、弟と暮らす。  
●好きなこと=本を読むこと。  
●学校まで徒歩で10分。

ミアン・セレイちゃん  
(女の子)



スロン小学校  
(コンボンスプー県)  
1年生(6歳)

●家族構成=両親いるが別居。弟がいる。現在祖父、祖母、弟と暮らす。  
●好きなこと=絵を描くこと。  
●学校まで徒歩で30分。

ロイン・スレイメイちゃん  
(女の子)



スロン小学校  
(コンボンスプー県)  
3年生(9歳)

●両親離婚、母親のみ。弟と妹がいる。現在母親、弟、妹と暮らす。  
●好きなこと=本を読むこと。  
●学校まで徒歩で30分。

### ご主人の3年忌に遊具を寄贈

11月22日、「キリソコム小学校」(コンボンスプー県、生徒数=250人)に併設された幼稚園に、遊具(滑り台)を1台設置した。戸沼つたえ様(埼玉県在住の里親会員)の寄贈によるもの。以前里親会員だったご主人が亡くなり、3年忌の記念にと寄贈してくれた。夫婦の絆を実感。

これといった遊びがない園児たち、何度も滑っていた。

遊具で遊ぶ幼稚園児



### 小学校の校舎建設が順調に進む

「札幌ポブラライオンズクラブ」(事務局=札幌市中央区・石黒義久会長)の創立60周年記念事業としてカンボジアの小学校に校舎を寄贈してくれることが決まり10月21日、校舎建設の着工式が行われた。(既報)

その後建設工事は順調に進み既に50%以上が終了、2月中にはほぼ完成する運びになった。

校舎の建設工事は「トロペアントレアン小学校」(クラチェ県・チェットボレイ郡・トロペアントレアン村、生徒数=326人)で行われている。

校舎はレンガ造りの3教室で、直ぐに授業ができるよう生徒が座る椅子、黒板なども設置される。



新校舎建設工事進む

### 香川大学の皆さんとオンラインミーティング



香川大学国際NGO「U-dawn」の皆さん

11月18日、四国にある香川大学国際NGO「U-dawn」の皆さんと根岸理事長が、Zoomでオンラインミーティングを行った。

本会としては初めてコンタクトする学生団体、カンボジアでの水支援をテーマに活動したいと意向があり、約2時間本会の井戸建設支援について、詳細説明した。

同会は昨年発足したばかりの学内サークルで、コロナ禍もあり一度もカンボジアを訪問していないとのこと、まずは現地を訪れてニーズを探ることが先決ではと、アドバイスした。

### 小学校に苗木をプレゼント

11月3日、カンボジア滞在中の三林けい子さん(新潟県在住の里親会員)が、4年前に本会が校舎を寄贈した「ロマンソー小学校」(コンボンスプー県・生徒数=80人)にたくさんの苗木をプレゼントした。三林さんと同郷の「世界の恵まれない地域に小学校を作る会」(新潟市秋葉区・石川幸夫会長)が、本会を通じて3教室の校舎を寄贈した小学校。

数年後、生徒たちは木陰で休むことができそうだ。感謝!



苗木をありがとう

### 水祭り

11月7日~9日、カンボジアの水祭りです。3日間の祝日、プノンベンのポート漕ぎ競争は過去2年間コロナ禍で中止だったので今年実施かと思いきや、丁度ASEAN首脳会議などが川沿いのホテルで行われたため、今年も中止された。しかし地方では行われたので、それなりに楽しんでいただようだ。



水祭り

### ASEAN首脳会議を開催



ASEAN首脳会議

今年カンボジアがASEAN議長国、11月8日~13日、プノンペン市内のホテルでASEAN首脳会議及び関連サミットが開催された。日本の岸田首相や中国の李克強首相らが出席、久々にカンボジアが首脳外交の舞台になった。首脳会議では、東ティモールのASEAN加盟が承認され、11ヶ国体制になった。(写真出典: Kmer Times)

### 積載オーバー

カンボジアで時折り見かける積載オーバー気味のバイク、トレットペーパーのような軽い物のようだが、バランスを取るのに中々難しい。日本でお目にかかることは先ずなさそう。



積載オーバー

### 絶滅の危機にある「人力車・シクロ」を保存しよう

プノンベンの街中で時折り見かける人力車・シクロ、30年前に推定1万2千人いたシクロドライバーも、バイクやトクトクの出現で現在は推定500台を割っていると思われる。そこで行政当局は11月5日に初の「シクロデー」をプノンペン市内で開催、数十台のシクロが参加した。シクロドライバーの多くは高齢で貧困層が大半、保存には彼らの生活支援が必要。(写真出典: Kmer Times)



人力車(シクロ)

### アンコール遺跡群への外国人観光客数が大幅増



観光客増加

2022年1月~10月の統計で、アンコール遺跡群への外国人の観光客数は169,349人で、昨年の同時期から大幅増加した。外国人の大半が欧米人とインド人、中国はゼロコロナ政策で海外旅行を制限しているため、コロナ前の状態に戻ることは困難のようだ。(写真出典: Kmer Times)

### カンボジア国旗を掲げるよう指示

カンボジア西部のリゾート「シアヌークビル」は、数年前から中国の進出が目立ち、中国語の看板ばかりが目立って中国人の街になってしまった。そこで行政当局は、イベントや祝日などにカンボジア国旗を掲げるよう指示を出した。中国人に「ここはカンボジアだ!」と警告しているようだ。(写真出典: Kmer Times)



カンボジア国旗

出典: Kmer Times

クメール教育里親基金活動レポート



オンライン里子訪問

本会では、病气や事故、親の離婚などにより両親や片親をなくしたり、親がいても貧しい家庭環境にあるカンボジアの子どもたちが安心して学ぶことができるよう、2003年に「クメール教育里親基金」を創設、現在280人の子どもたちを教育支援している。カンボジアの公立学校は11月末日が年度末、12月の長期休暇を経て1月から新学期が始まった。最近ではコロナによる休校もなく、ほぼ通常に戻った。

なお、私立の学校や大学については、昨年10月から新学期がスタートしている。

11月25日、里子支援する里親さんからのリクエストで、現地にいる里子とオンラインで二度目の訪問を行った。現地に行かなくてもオンラインで交流できる、素晴らしい時代になった。

オンライン里子訪問を希望される方は事務局に連絡を。 ☎03-3991-2854

里子への教育支援金を隔月に届けています



教育支援金を届けました

本会のカンボジア事務所では現地スタッフが、教育里子が通学する小学校(25校)を隔月に訪問、教育里親様より頂戴した年会費の中から6回に分け、米ドルに換金して教育支援金を届けている。

中学校、高等学校に通う教育里子も出身校の小学校に集まり、支援金を受け取っている。

11月22日~11月30日の間に10月分と11月分を、2人の現地スタッフが各学校を回り、教育支援金と里親さんからのプレゼントを届けた。

カンボジアの公立学校(小・中・高)は、1月2日に新学期を迎えた。

里子へのプレゼントは 随時受け付けています

- コロナウイルスの感染拡大により、カンボジアへの渡航が難しくなりました。しかし、海外送金は問題なく可能ですので、当面は皆様から送って頂いたプレゼント代金を現地の本会銀行口座に送り、現地スタッフがプレゼントをお届け致します。里子からのお礼状(写真付き)もメールで送ってまいります。
● 事務局に届いた里子プレゼント(品物)につきましては、カンボジアへの渡航が可能になりましたら、空港から持参させていただきます。暫くお時間を頂きますので、この時期品物を避け、なるべく現金をお送りください。(手紙はメールで、現地に送ります)

現地購入(プレゼント代を振込票にて送金ください)

Table with 2 columns: Item and Price. Items include bicycle, rice, school supplies, books, and stationery.

※上記の代金は、現地での物品調達や里子へ届けるための車代等の諸経費として、原価に20%を上乗せしております。
※里親様が現地に行き、里子にプレゼントを直接届ける場合は、原価での購入になります。

投稿 カンボジアの牛とそれにまつわる不思議(3) ~和牛のルーツとカンボジア牛の行方~

佐々木 英介(東京都在住、里親会員)



前回は、カンボジアを経由する日本産牛肉の闇ルートに関して述べましたが、そこまでして需要の多い日本産牛肉とは、一体どのようなものなのでしょう。

江戸時代までの日本の牛は、カンボジアと同様に農耕用として飼育されていて、それらは小柄な品種でした。が、文明開化後の牛肉食の普及と共に、外国種との交配による大型化が盛んに試みられたものの、これがどれもうまくいかず、「やはり純粋な黒毛和牛が一番うまかった」ということになり、戦後あたりから元の和牛を復活させようとして、純粋種を探しまわったようです。

ところが、なんと兵庫県山奥にある里に純潔の但馬牛が、そして山口県から北に数十km離れた対馬海峡に浮かぶ見島にも、数頭だけ残っていることが分かったのです!

つまりそれらの地が、文明に取り残されていた地域だったからこそ奇跡的に外国種との交配を免れたわけで、これらの牛こそが、現在世界に冠たるブランド和牛の元祖そのものへ昇格した次第です。

その日本産牛肉の輸入禁止措置を、日本政府との外交カードに利用している中国ですが、その輸入解除をせずとも、既に世界の最先端とも言われるクローン技術によって、サシ入りのクローン高級和牛が中国で生産され出すのも、時間の問題かもしれません。

農業の機械化によって、カンボジアの牛も食肉用へ転換しだし、更にそれらの多くが近隣国へ密輸されているというのに、大量の日本産牛肉を輸入してそれを闇ルートで中国へ転送するという、何とも不可解なカンボジアの牛事情ではありますが、農業機械も含め全てに中国が関わっているようで、もはや中国抜きにそれらを語れないとも言えそうです。(終わり)

投稿 カンボジアのロータリー交差点のお話です

中村 善信(プノンペン在住、喫茶店経営)



カンボジアのロータリー

カンボジアでの道路の交差点(3、4、5叉路等)は、もっぱら信号機が無い交差点が多いです。特に地方の田舎に行きますと、信号機はまずありません。昔の統治国のフランスの影響だと思えますが、ロータリー形式の交差点です。

環状部分の通行方向は、カンボジアは右側通行のため左回り(反時計回り)で、一時停止の標識や信号機はありません。環状の交差点なので、中央部分にその土地の特徴的な記念碑が建てられるわけです。

カンボジア国内を旅行されますと、いろんな地域で特徴的な記念碑(モニュメント)を見ることが出来て、それも楽しみのひとつです。

日本国内で生活していますと、ロータリー形式の交差点はまず見かけませんので戸惑うことが多いのですが、3ヶ月くらい生活しているとロータリー交差点の走り方も覚えやすく、意外と早く走ることができて便利だと思いますよ。

私のブログ「なかやんのプノンペン滞在記」を検索されますと、ロータリーの検索で24箇所、モニュメントで検索されますと36箇所の記事が出てきます。ご覧になられてください。

投稿 M君の思い出(7)

今 紀子(東京都在住、会員)

その新聞記者は、インタビューを申し込んできた。けれど、M君に関する事は、既にA新聞に取りあげられていて、それ以上話すことは何もない。お断りしたが、是非にということでお受けすることにした。

私が記者だったら、M君の校舎建設の現場取材する。現場に関わっている人でなければ解らない、いろいろなお苦勞があるに違いない。例えば、資材搬入、そして、その資材が盗難に遭わないように工夫するなど、外部の者には見当もつかない番狂わせなども続出するのではないだろうか。私たちは、完成した立派な校舎を見て喜んでいるだけなのである。

根岸理事長は、会員の方から依頼された校舎建設が始まると、何度も現地に足を運ばれていると聞く。責任を一身にその姿には、本当に頭の下がる思いである。

さて、某月某日。私は記者なる若者から、いくつか質問を受けた。どんな質問だったか覚えていない。要するに、何の為のインタビューなのか、彼自身も理解できていなかったのではないだろうか。その後、彼からは何の音沙汰もなかった。

この頃、M君は、ボルボト残党が住んでいる村に貯水池や学校などを造っていたと思われる。記者氏は千載一遇の機会を失ってしまった。

ボルボト時代を生きた人たちは、被害者であると同時に加害者にもならざるを得なかった。逃れることのできない人間の業を背負って生きているM君たち。あなたたちの為に、私は祈ります。

さらに月日は流れ、2016年。ある新聞紙上でM君の元気な姿に出会ったのです。(続く)

春さんのカンボジアレポート ~独立69周年記念~

2022年11月10日にカンボジアはフランスから独立して69周年を迎えました。首都プノンペンではシハモ二国王以下、サイ・チュム上院議長、ヘン・サムリン国会議長、フン・セン首相等がこの独立記念式典に出席し、多くの外国大使も出席しました。



独立69周年

第二次世界大戦終了後にインドシナ3国(カンボジア、ラオス、ベトナム)は独立が認められたのですが、カンボジアにはフランス軍が再進駐してフランスの保護国になってしまいました。ここで故シアヌーク前国王は各国で「独立十字軍運動」を展開し、1953年11月9日に独立を果たしました。

この運動には日本が大きく貢献しており、それゆえシアヌーク前国王はシハモ二国王の幼名に「トーキョー」と名付けられたとの事です。(写真出典:Khmer Times)

里親会員 鈴木春男(カンボジア・シェムリアップ在住)

